

科目名	教科書名	副教材名
高校3年 特別進学 物理特講	物理基礎（数研出版） 物理（数研出版）	物理の良問問題集 物理基礎・ 物理（旺文社）

1. 授業のねらい

- ① 物理に関する専門的な知識を身につけ、科学的思考能力を身につける。
- ② 大学入試共通テストで得点源となる実力を身につける。
- ③ 難関大受験を視野に入れ、応用力を身につける。

2. 授業のすすめ方

- ① 自宅で基礎問題を反復し、公式の使い方を確認する。
- ② 授業で入試頻出問題を解き、多角的に解説する。
- ③ 応用問題を自力で解き、理解度を深める。

3. 学習上の留意点

- ① 授業では説明をしっかりと聞き、疑問点等はその都度、質問をすること。
- ② 重要事項を板書するので、必要に応じてノートに写し取ること。板書されていない場合でも、話した内容をノートにメモしておくことで、内容理解の助けになる。
必要に応じてプリントを配付するので、活用すること。
- ③ 知識や考え方を定着させるために、教科書・参考書・問題集等を活用して復習を行うこと。
 - ・授業があったその日のうちにノートを見返して復習を行う。
 - ・問題集を1回解いただけでは、学力の定着は期待できない。授業の進行に沿って解ける問題から解いていくようにする。特に間違えた問題は自分の弱点であるので、印をつけて解けるまでやること。
- ④ 入試対策
 - ・基礎学力定着のために基礎問題を反復し、応用問題で理解を深めること。
 - ・大学入試を意識し、自分に合った学習法を確立させること。
- ④ 考査対策
 - ・授業を聞き家庭学習を行ってれば、考査対策は半分以上終わったといえる。
 - ・最後のまとめとして、ノートを見直し、解けなかった問題に再度取り組んで欲しい。
- ⑤ 進路選択
 - ・大学進学に向け、情報を広く集めておくこと。
 - ・早期に進路を決定し、無駄の少ない進路対策を実践してほしい。

4. 副教材・参考文献

上記の副教材を使用する。
他に、自分にあった参考書・問題集を用意しておくことよい。
スタディーサプリなどのweb教材も日々の学習に活用して欲しい。

5. 評価の視点・テスト・課題等

定期考査による学習の到達度（100点×3回）と平常点30点（提出物・授業態度など）で年間を通して評価する。
考査毎に問題集ノートの提出を行う。問題集ノートの他、授業中の課題、宿題、実力テスト等の取り組みの状況を加味して平常点をつける。

6. 定期考査

定期考査による学習の到達度と平常点（提出物・授業態度等）で年間を通して評価する。

7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	4	第1編 力学 第1章 等加速度運動 第2章 つりあい 第3章 力と運動 第4章 仕事と力学的エネルギー 第5章 運動量保存・衝突	問題集ノート提出	<ul style="list-style-type: none"> 授業で使用する問題集用ノートを作成し、例題・演習問題を各自自宅学習で解く。 力学・波動・電磁気学・熱力学・原子と5項目に分け、更に細分化して入試必須項目を確認し、学び、理解する。 記号選択式の問題や記述式の大学入試問題を適宜取り入れ、挑戦する。間違えやすいポイントをおさえる。 前述の5項目での己の弱点を再確認し克服する事を目的とし、取り組む。 夏期休暇中の学習計画を綿密に立てる。夏期講習を利用しながら弱点の把握と克服を目標とし、力を入れる。
	5	第6章 円運動・万有引力 第7章 単振動 第2編 熱 第8章 熱量と比熱 第9章 気体の状態変化 中間考査		
	6	第3編 波動 第10章 波の性質 第11章 弦・気柱の振動 第12章 ドップラー効果 第13章 光の反射・屈折 第14章 光波の干渉		
	7	第4編 電磁気 第15章 電場と電位 第16章 コンデンサー 第17章 直流回路 期末考査		
		※ 夏期講習で物理の講座を開設予定		
二 学 期	9	1学期の範囲の復習	問題集ノート提出	<ul style="list-style-type: none"> 選択式の問題演習を行うことにより、出題形式及び時間配分に慣れることを目的とし、共通テストに備える。 ※マークシート対策も心得ておく。
	10	第4編 電磁気 第18章 電流と磁場・電磁誘導 第19章 交流回路 第20章 荷電粒子の電磁場中での運動		
	11	第5編 原子 第21章 電子と光 第22章 原子と原子核 共通テスト対策		
	12	期末考査		
三 学 期	1	特別編成授業		
	2			
	3			